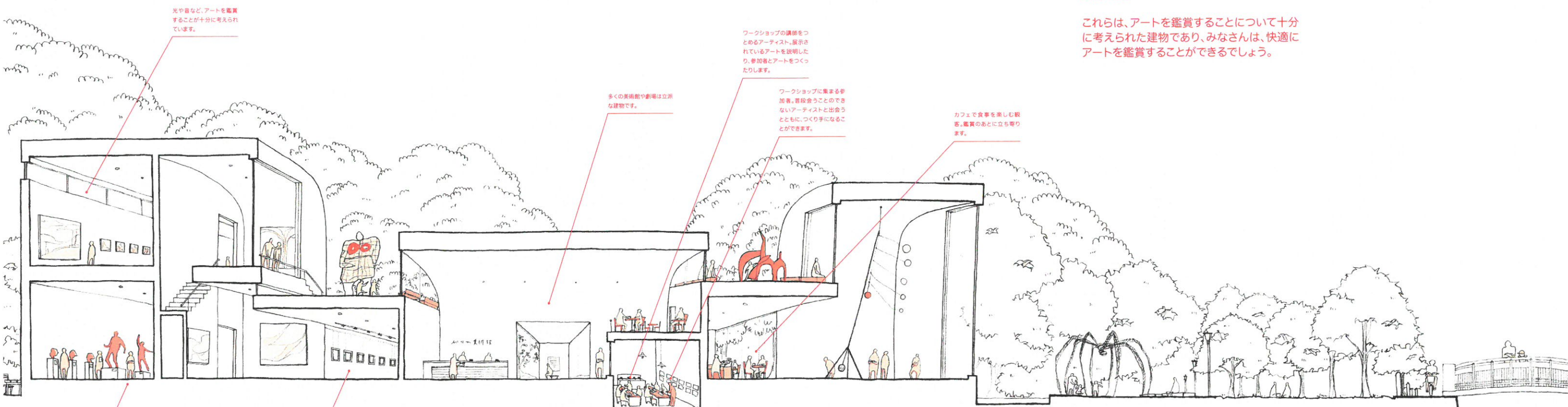


## アートをみるための美術館や劇場

絵画や彫刻、演劇やダンスを鑑賞するためのアートの拠点です。これらは、それほど小さいものではありません。アートを生み出す拠点というよりは、アーティストたちがアトリエや稽古場でつくってきたアートを発表するための拠点です。

これらは、アートを鑑賞することについて十分に考えられた建物であり、みなさんは、快適にアートを鑑賞することができます。



光や音など、アートを鑑賞することが十分に考えられています。

多くの美術館や劇場は立派な建物です。

ワークショップの講師をつとめるアーティスト、展示されているアートを説明したり、参加者とアートをつくり合ったりします。

ワークショップに集まる参加者、普段会うことのできないアーティストと出会うとともに、つくり手になることができます。

カフェで食事を楽しむ観客、鑑賞のあとに立ち寄ります。

美術館に集まる観客、展示されている絵画や彫刻を鑑賞しにきています。

外部からの影響を受けることなく、集中してアートを鑑賞することができます。

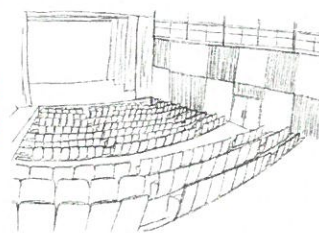
### 豊島区立 熊谷守一美術館

豊島区・千早にある、画家・熊谷守一の個人美術館です。熊谷が住んでいた住居兼アトリエの跡地に建てられています。熊谷の油絵作品を主に展示しています。



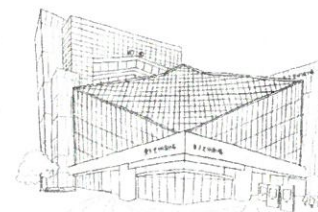
### 豊島区立舞台芸術交流センター おうるすぽっと

豊島区・東池袋にある、コンバクトで臨場感あふれる301席の小劇場です。演劇やダンスなどの本格的な舞台芸術を上演します。



### 東京芸術劇場

豊島区・西池袋にある、複数のホールを持つ劇場です。クラシック専用のコンサートホール、演劇・舞踊などを上演する中ホールとふたつの小ホールが揃っています。

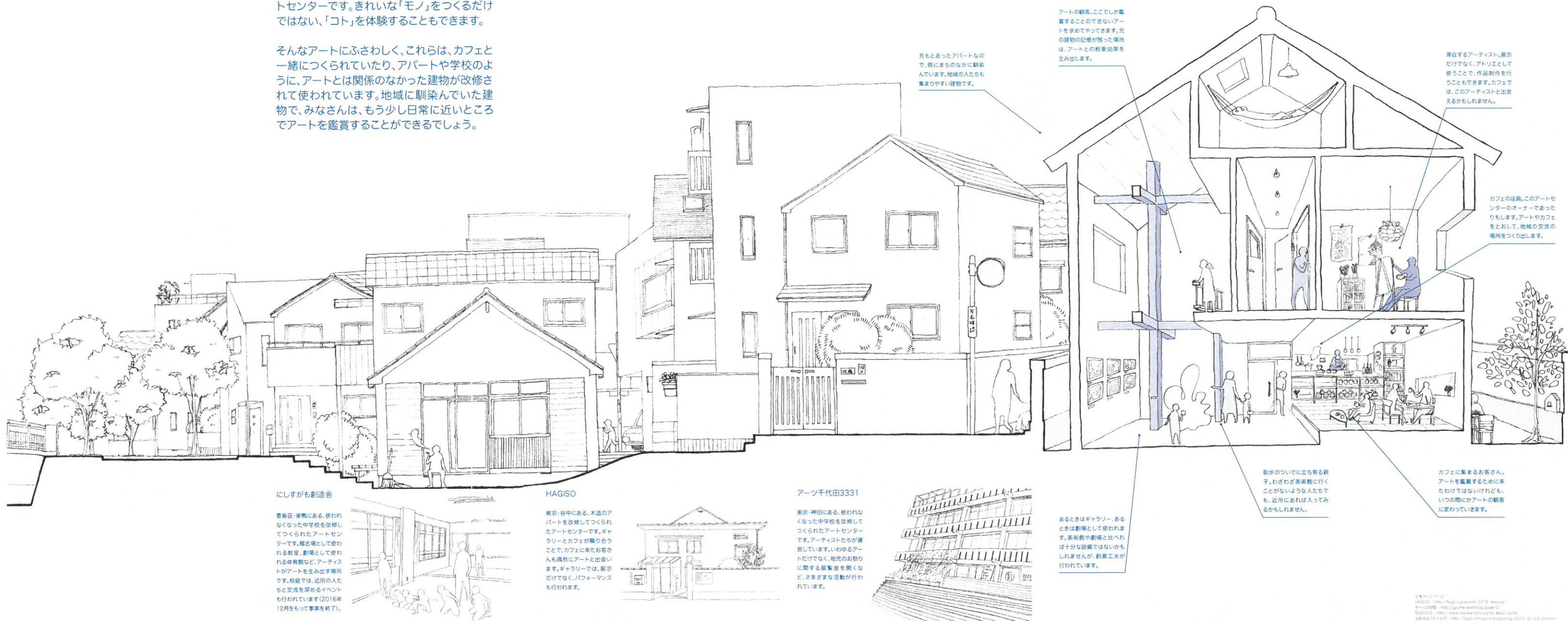




## 広がりを持つアートセンター

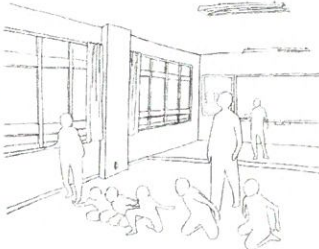
一見すると美術館や劇場には見えない建物を利用して、アートの拠点をづくり出すのがアートセンターです。きれいな「モノ」をつくるだけではない、「コト」を体験することもできます。

そんなアートにふさわしく、これらは、カフェと一緒につくられていたり、アパートや学校のように、アートとは関係のなかった建物が改修されて使われています。地域に馴染んでいた建物で、みなさんは、もう少し日常に近いところでアートを鑑賞することができるでしょう。



にしすがも創造舎

豊島区・東鴨にある、使われなくなった中学校を改修してつくられたアートセンターです。稽古場として使われる教室、劇場として使われる体育館など、アーティストがアートを生み出す場所です。校庭では、近所の人たちと交流を深めるイベントも行われています(2016年12月をもって事業を終了)。



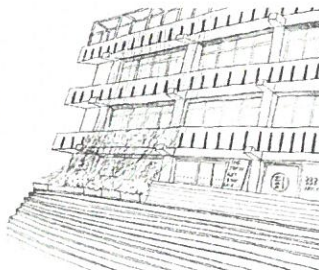
HAGISO

東京・谷中にある、木造のアパートを改修してつくられたアートセンターです。ギャラリーとカフェが隣り合うことで、カフェに来たお客さんも偶然にアートと出会います。ギャラリーでは、展示だけでなく、パフォーマンスも行われます。



アーツ千代田3331

東京・神田にある、使われなくなった中学校を改修してつくられたアートセンターです。アーティストたちが運営しています。地元のアーティストだけでなく、地元のお祭りに関する展覧会を聞くなど、さまざまな活動が行われています。



アートの観客、ここでしか鑑賞することのできないアートを求めてやってくる。元の建物の記憶が残った場所は、アートとの相乗効果を生み出します。

元もアパートなので、既にまちのなかに馴染んでいます。地域の人たちも集まりやすい建物です。

滞在するアーティスト。展示だけでなく、アトリエとして使うことで、作品制作を行うこともできます。カフェでは、このアーティストと出会うこともありません。

カフェの店員。このアートセンターのオーナーであったりもします。アートやカフェをとおして、地域の交流の場所をつくり出します。

散歩のついでに立ち寄る親子。わざわざ美術館に行くことがないような人たちでも、近所であれば入ってみたい場所かもしれません。

カフェに集まるお客さん。アートを鑑賞するために来たわけではないけれども、いつの間にかアートの観客に変わっています。

あるときはギャラリー、あるときは劇場として使われます。美術館や劇場と比べれば十分な設備ではないかもしれませんが、創業者が行われています。





変われなくなった平野、アーティストたちがひととき滞在して、アート作品をまみ出します。

遠方から訪れる観光、日常から離れ、祝祭的な雰囲気の中で、親人与人之间にアートを楽しみます。

巨大な気球を飛行させるプロジェクトは、いつもの風景に彩りが加えることで、新しい風景が作り出されます。

変われなくなった風景、アートが溢れ、新しい魅力が地域に伝わります。

## 祝祭的なアートプロジェクト

美術館や劇場ではおさまりきらなくなったアートは、建物を飛び出し、さまざまな場所で展示や上演が行われるようになりました。これらは、ひとときだけ祝祭的な状況をつくり出します。

これらの大掛かりなアートプロジェクトには多くの観客が集まり、地域を活性化させる役割を担っています。また、まちなかで非日常的な体験をすることにより、地域の新たな価値を発見することができ、地域に愛着を持つきっかけをつくります。アートを鑑賞するとともに、まちや自然、そこに暮らす人とも出会うことができるでしょう。

このほろ、プロジェクトの場をわかりやすくするために、いつもと違う風景にしてください。

地域の人が参加するプロジェクトは、まるでお祭りのようなのです。

田んぼに設置されたアート、自然の風景と一体となり、数年に1度のお祭りを盛り上げます。

### フェスティバル/トーキョー

東京芸術劇場をはじめ、豊島区・池袋エリアに集積する文化拠点を中心に開催される、国際的な舞台芸術のフェスティバルです。国内外から集結する同時代の舞台芸術作品が上演されます。

### 大地の芸術祭 越後妻有トリエンナーレ

新潟県十日町市、津南町で3年に1度開催される国際芸術祭です。過疎高齢化の進む日本有数の芸術地・越後妻有にて、アートによる地域づくりの先進事例としても注目されています。

### 横浜トリエンナーレ

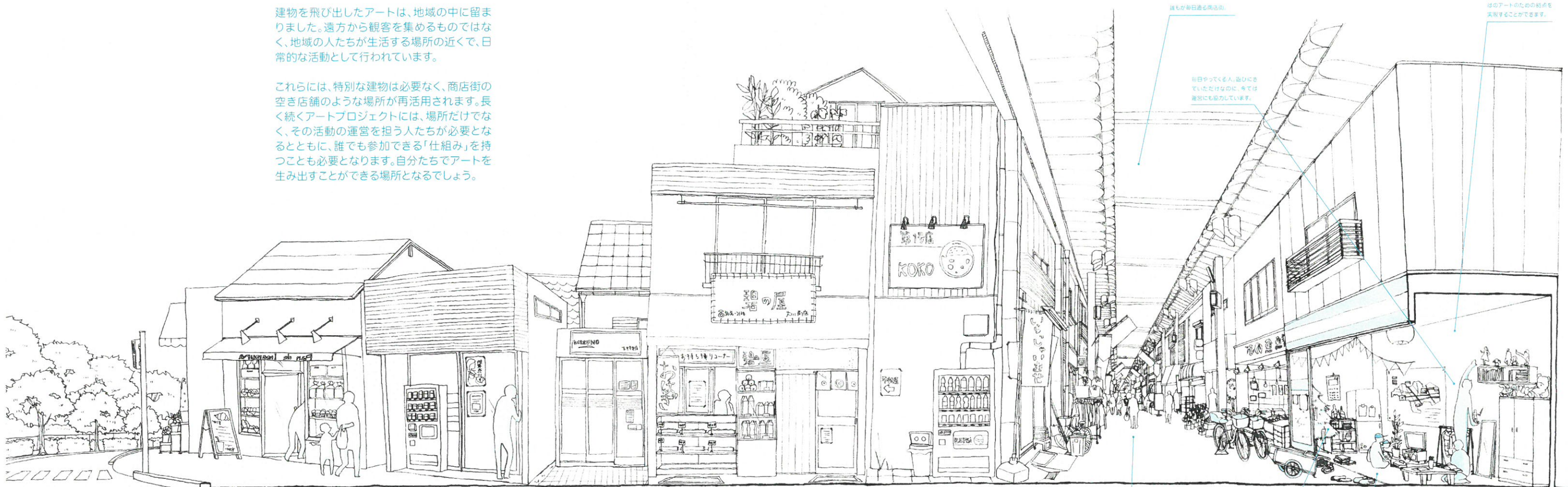
横浜川崎横浜港で3年に1度行われる、現代アートの国際祭です。国際的に活躍するアーティストの作品を展示するほか、新進のアーティストも広く紹介し、世界最新の現代アートの動向を提示しています。



## 日常的なアートプロジェクト

建物を飛び出したアートは、地域の中に留まりました。遠方から観客を集めるのではなく、地域の人たちが生活する場所の近くで、日常的な活動として行われています。

これらには、特別な建物は必要なく、商店街の空き店舗のような場所が再利用されます。長く続くアートプロジェクトには、場所だけでなく、その活動の運営を担う人たちが必要となるとともに、誰でも参加できる「仕組み」を持つことも必要となります。自分たちでアートを生み出すことができる場所となるでしょう。



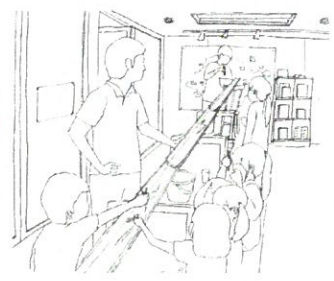
誰もが毎日通る商店街。

毎日やってくる人、遊びに来たばかりなのに、ここでは誰にも拒絶していません。

空き店舗、その場所ならではのアートのための拠点を実現することができます。

### としまアートステーションZ

豊島区・雑司が谷にある、「としまアートステーションZ」の拠点。地下鉄「雑司が谷駅」直結の公共施設的にオープンしています。ここでは、目的がはっきり決まっている人も、まだ決まっていない人も、自分なりに運営ができる「準備室」です。



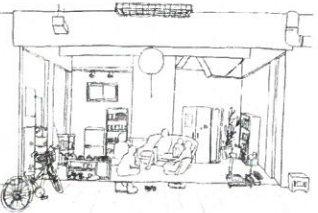
### 取手アートプロジェクト

茨城県取手市で行われているアートプロジェクト。「アートのある団地」や「半農半住」など、日常の中にアートが入り込むことで、常にアートが暮らしにある環境をつくり出しています。



### リビングルーム

アーティスト北海道の発案によるプロジェクト。地域にもともとある場所を使い、素材を物々交換するシステムを利用して、さまざまな開かれた「居間」をつくります。それによって、地域における交流の場所をつくり出しています。



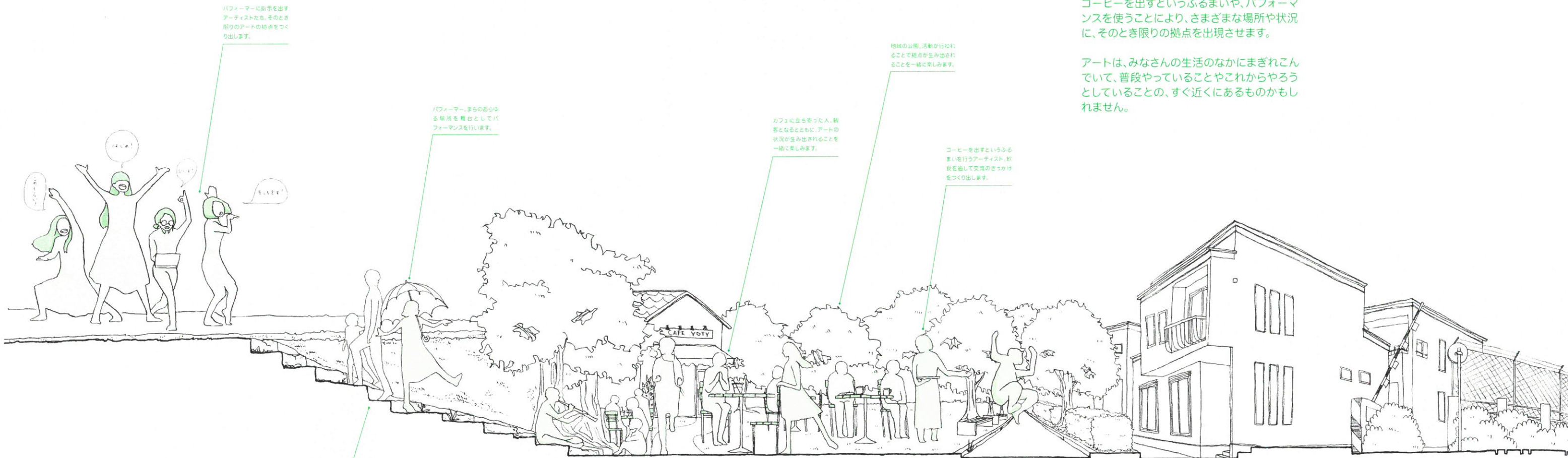
商店街を歩く人、また、拠点の存在は気づかれています。

地域から集められたものたち、自分のものを持つことで、この拠点を愛着がわいてきます。

この拠点の運営を担う人、その人たちがいることで、ふらりと訪れることができる場所となります。

遊びに来る人、ここに過ううちに、何か自分でやってみたいと思いはじめます。





パフォーマンスに出すアーティストたち、そのとき限りのアートの拠点をづくり出します。

パフォーマンス、まちのあらゆる場所を舞台としてパフォーマンスを行います。

カフェに立ち寄った人、観客となるとともに、アートの状況が生み出されることを一緒に楽しみます。

地域の公園、活動が行われることで拠点が生み出されることを一緒に楽しみます。

コーヒーを出すというふるまいをを行うアーティスト、飲食を通して交流のきっかけをつくり出します。

散歩をしている親子、通りがかりにパフォーマンスと出会います。

パフォーマンスの観客、自分の好きなときに、パフォーマンスを観覧することができます。

### アートの拠点をづくり出す活動

決まった場所を持たずに活動を起こすことで、アートの拠点をづくり出します。これらは、コーヒーを出すというふるまいや、パフォーマンスを使うことにより、さまざまな場所や状況に、そのとき限りの拠点を出現させます。

アートは、みなさんの生活のなかにまぎれこんでいて、普段やっていることやこれからやるうとしていることの、すぐ近くにあるものかもしれません。

#### L PACK



小田桐安と中嶋悠矢によるアーティストユニットです。バックパックに詰め込んだ小規模の道具と現地の手材を機材の足元で組み合わせる「コーヒーのある風景」をきっかけに、まちの風景の一部となることを目指しています。

#### 居間 theater



演劇やダンスを得意に持つメンバーを中心とするパフォーマンスプロジェクトです。東京・谷中にあるHAGISOを拠点に活動しています。多様なジャンルの人々との共同制作や、カフェなどの「場」や、「状況」そのものもつくり出し、セッションを行っています。



## 家を使ったアート拠点

アートは、地域の中に留まり、もはやアートのための場所でもなく、アートと関わるができるようになりました。これらは、生活にもっとも近い家を使って、日常的にアートを生み出す拠点をづくり出しています。

その家の住民がどのような人物かによって、そのあり方はさまざまに変わります。個人の家は公共の場となり、地域における交流の拠点にもなります。自分たちが持っている家を利用した小さな拠点は、さまざまなアートを生み出すことでしょう。



住宅地の中間層、どこにでもあつちような家からアートを生み出す小さな拠点となります。

和室の家を開く住人、SNSで集まった人たちとイベントを行っています。

### 山田荘 (旧としまアートステーションY)

青森県 上田郡にある木造アパートです。有効活用したいオープンとともに、「としまアートステーションY」として使用後、独立して運営が行われています。



### 住み開き

日常編集系アサカワタルが主催するアートプロジェクトです。自宅を代表としたプライベートな生活空間を、本来の用途以外のクリエイティブな手法で、セミパブリックなスペースとして開放している活動、もしくはその拠点のことを指しています。



家、プライベートな場所が公共的な場所として開かれます。

本を読む人、自宅の書斎を図書室として地域に開放しています。

こたつでイベントを行う住人、鍋を囲みながら、さまざまな人たちと交流します。

テレビを見る住人、自分の家なので、好きなときにだけ拠点として使います。

くつろぐ住人、もちろん個室はプライベートな場所となっています。